

平成 2 2 年度病虫害発生予報第 1 号

平成 2 2 年 4 月 8 日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	苗立枯病	-	平年並
		ばか苗病	平年並	やや少ない
		イネシンガレセンチュウ	平年並	やや少ない
	オオムギ	赤かび病	平年並	平年並
		うどんこ病	-	多い
		網斑病	-	多い
果樹	ナシ	黒斑病	やや早い	平年並
		黒星病	やや早い	やや多い
		赤星病	やや早い	平年並
		ハダニ類	やや早い	平年並
		カメムシ類	やや早い	やや多い
野菜	ラッキョウ	灰色かび病	平年並	やや多い
	スイカ、メロン、 タバコ	アブラムシ類	やや遅い	平年並
	ネギ	べと病	早い	やや多い

気象予報（抜粋）

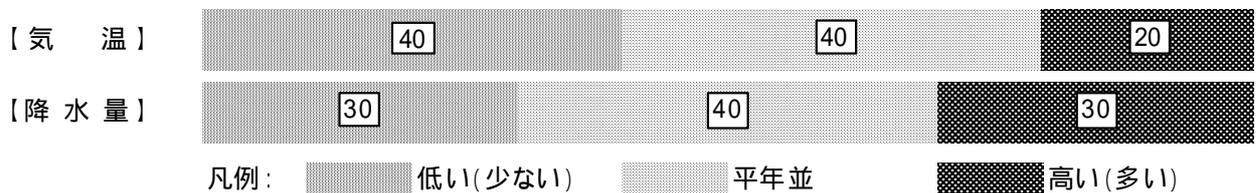
1 か月予報（4月3日～5月2日：4月2日、広島地方気象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

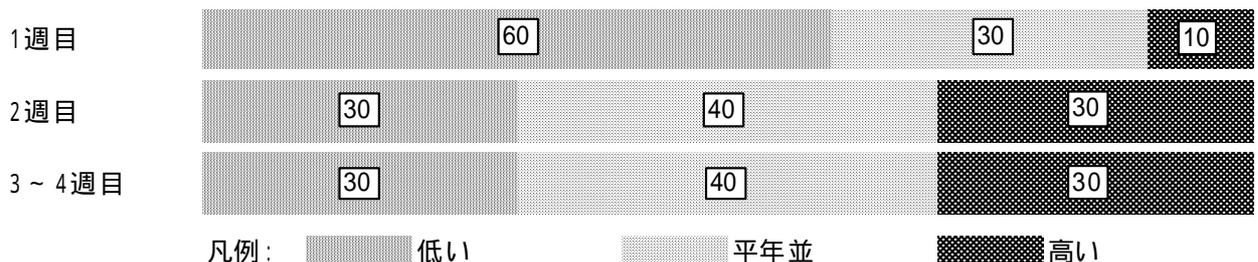
天気は数日の周期で変わるとでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は、平年並または低い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は低い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



普通作物

[イネ]

1 苗立枯病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエース液剤の500～1,000倍液
又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん
注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、
早めに本田に移植する。

2 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域 県内全域
発生時期 平年並(育苗期)
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子
を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種
を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。
エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)にあたっては、薬液がよく浸透す
るように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10以下にならない
ように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わ
ないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水す
る。

3 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生はやや少なかったため、汚染籾率は低
いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので、注意する。

[ム ギ(オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 二条オオムギ、六条オオムギとも出穂期は平年並と予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので、注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、平成22年度麦栽培指導指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後ころ、六条オオムギでは開花を始めた時期～開花期、及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(平成22年3月16日付、平成21年度病害虫発生予察注意報を公表)

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生量	多い

(2) 予報の根拠

- ア 3月中旬現在、発生ほ場率は64.3%（平年：13.1%）、平均発病茎率は16.6%（平年：2.1%）と平年に比べて高かった。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は引き続き多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

平成22年3月16日付、平成21年度病害虫発生予察注意報第6号を参照

3 網斑病（平成22年3月16日付、平成21年度病害虫発生予察注意報を公表）

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生量	多い

(2) 予報の根拠

- ア 3月中旬現在、発生ほ場率は78.6%（平年：41.6%）、平均発病茎率は8.5%（平年：1.4%）と平年に比べて高かった。
- イ ムギの茎数は平年並に推移している（二条オオムギ）。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は引き続き多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

平成 2 2 年 3 月 1 6 日付、平成 2 1 年度病虫害発生予察注意報第 6 号を参照

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、短果枝の病芽率はほぼ平年並であったが、一年枝上の枝病斑数及び病枝率は平年をやや下回った。

イ ナシの生育は平年に比べてやや早い。

ウ 向こう 1 か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。

イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤は開花始めにチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル) 5 0 0 倍液など、人工交配終了後にフロンサイド S C 2 , 0 0 0 倍液又はベルクガード水和剤 5 0 0 倍液など、落花期に有機銅フロアブル(キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル) 1 , 0 0 0 倍液などを散布する。

2 黒星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園(幸水及び豊水、休眠期における腋花芽調査)における病芽率は 0 . 7 % (平年 1 . 5 %) で、平年をやや下回った。

イ 昨年の本病の発生は全般的にやや多く、病芽率などの越冬菌密度の高い園が散見される。

ウ 越冬伝染源からの胞子の飛散は 3 月下旬から始まっており、飛散開始時期はほぼ平年並であった。

エ ナシの生育はやや早い。

オ 向こう 1 か月の気象予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれており、発生をやや助長する条件である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。

イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル 1 , 5 0 0 倍液など、落花期に E B

I 水和剤（スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど）4,000倍とチウラムフロアブル（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍の混用液などを散布する。

3 赤星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い
発生量 平年並（一部やや多い）

(2) 予報の根拠

- ア 県予察ほ場（東伯郡北栄町）のビヤクシン上における冬孢子堆の形成量はほぼ平年並であったが、果樹園の近くに植栽されたビヤクシン類に冬孢子堆の形成量が多い地域が認められる。
- イ 4月7日現在、伝染源となるビヤクシン上の冬孢子堆の膨潤は約80%程度で、例年よりやや早い。
- ウ ナシの生育はやや早い。
- エ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果樹園の近くにビヤクシン類が植栽され、4月中～下旬に雨が多い場合、発病しやすくなる。
- イ 近年、生け垣などにビヤクシン類が植栽されている地域では、本病の発生がやや目立っている。
- ウ 冬孢子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。
- エ 薬剤は開花始めにアンビルフロアブル1,500倍液など、落花期にE B I水和剤（スコア顆粒水和剤又はオンリーワンフロアブルなど）4,000倍とチウラムフロアブル（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍との混用液などを散布する。
- オ 5月以降に葉の発病がみられるときは、E B I剤（スコア顆粒水和剤4,000倍液、オンリーワンフロアブル4,000倍液、アンビルフロアブル1,500倍液など）を追加散布する。

4 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は平年並～やや少なかった。
- イ ナシの生育はやや早い。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 蕾や葉にハダニ類の発生が認められた場合は、開花始めまでにカネマイトフロアブル1,500倍液などを単用で、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。
- イ ハダニ類の発生が多く認められる園では、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。

5 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、1トラップ当たり8.4頭(平年:8.2頭)で、ほぼ平年並であった。しかし、越冬量が過去10年間で最も高い地点も認められている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤又はスタークル顆粒水溶剤)2,000倍液などを追加散布する。

野菜

[ラッキョウ]

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 本病の初発生時期は、平年並の3月上旬であった。

イ 3月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年に比べてやや多い。

ウ 本病は4月の気温が高く、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 4月下旬まで、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉上に多数の分生胞子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

[スイカ、メロン、タバコ]

1 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場(東伯郡北栄町、露地ほ場)における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、4月1日現在確認されていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや遅くなると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には寒冷紗被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカにおいて、ハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス顆粒水和剤5,000倍液を散布する。トンネル栽培ではつる引き誘引時期に、チェス顆粒水和剤5,000倍液を、交配前にバリアード顆粒水和剤4,000倍液を散布する。

エ メロンでは、チェス顆粒水和剤5,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン水溶剤8,000倍液などを散布する。

オ タバコの近隣にジャガイモを栽培している場合は、タバコ黄斑えそ病の伝染源となるので、掘り残しイモをすべて除去する。また、ジャガイモやタバコを透明寒冷紗などにより被覆栽培するなどして本病の伝染を防ぐ。

[ネギ]

1 べと病

(1) 予報の内容

発生時期 早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬現在、県西部の一部ほ場において本病の発生が認められており、発生時期は平年に比べて早い。

イ 前年の春及び秋に、県内全域で本病が多発したことから、病原菌密度は高いと考えられる。

ウ 本病は、15位で降雨が続くと発病が増加する。向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の蔓延は早いので、発病前からの防除に努める。

イ 薬剤はランマンフロアブル2,000倍液、アリエッティ水和剤800倍液、ペンコゼブフロアブル600倍液などを予防散布する。

ウ 発病を認めたら直ちに、リドミルMZ水和剤1,000倍液、フォリオブラボ顆粒水和剤1,000倍液、フェスティバルC水和剤1,000倍液などを散布する。

エ 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数に注意して薬剤を選定する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます（<http://www.famic.go.jp/>）。

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。

周辺への飛散には充分注意しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-0723

E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回の予報発表は、平成22年4月22日（木）の予定です。